

## アリグモ

市民の方から「時々、家の中にアリが入ってきます。ところが、このアリの脚は、4対のようです。アリは昆虫ですから、脚は3対ですね。脚が4対ということは、このアリは、アリではなく、クモですか」との質問がありました。虫のことを良く御存じの方でした。市民の方が指摘されたとおり、持参された標本は、アリではなく、クモの仲間のアリグモの一種でした。手元の図鑑で調べましたが、種類を特定するに至りませんでした。

## 昆虫とクモの違い

昆虫もクモも節足動物の仲間に属します。節足動物の特徴は、名前のとおり脚（あし）に環節があることです。

昆虫とクモの違いは、体の基本的な構造にあります。昆虫は、体が頭部、胸部、腹部に分かれますが、クモは、頭部と胸部が一体化しています。さらに、市民の方が指摘されているように、普通、昆虫の脚は3対、クモの脚は4対であることなどの違いがあります。

## ハエトリグモ科

アリグモは、ハエトリグモ科の仲間です。ハエトリグモ科の特徴の一つが眼の並びです。普通、クモの眼は、8個あります。その並び方は、グループを分けるうえで重要です。ハエトリグモ科は、8個の眼のうち、前列の中央の2個がヘッドライトのように大きく前方に向いていることが特徴です。

ハエトリグモ科は、獲物を取るための巣を作りません。ハエトリグモの名前のとおり、自らが動き、餌になる小さな昆虫などをつかみ捕ります。小さな昆虫などの動きを知るためには前を見据えたヘッドライトのような大きな眼が必要なのでしょう。

また、脚の末端は、毛の束があるのも特徴です。この毛の束は、粘着性があり、ガラスの壁面などを自由に活動できます。これも、小さな昆虫などを捕るために必要な構造です。

## アリグモの擬態

このアリグモ、一目には、頭部、胸部、腹部に分かれているように見えますが、頭胸部は一体のものです。しかし、その頭胸部にくびれを作ることによって、頭部と胸部が分かれているように見せています。このくびれは、アリグモ属の仲間の特徴です。また、頭胸部と腹部の接合部分は、アリの仲間に特有な腹柄（ふくへい）に似た構造となっています。しかも、歩行時には、最も前の脚を歩行のために使用せず、高く上げて、アリの触角のような動きをするそうです。このように他の動物や植物に似せることを擬態と呼びます。

## 擬態の持つ意味

擬態には、幾つかのパターンがあります。枯葉に似せたコノハチョウ、小枝に似せたナナフシやシャクトリムシと呼ばれる蛾（が）幼虫などは、周囲の環境の植物に似た色や形を持つ、いわゆるカムフラージュすることによって、身を隠し、外敵から身を守っています。また、蛾の仲間であるスカシバの成虫は、攻撃性があり、毒の針を持つ大型のスズメバチ類に体を似せています。そのことによって外敵を威嚇し、外敵から身を守っているといわれます。

ところがアリグモは、周囲の環境に似せて外敵から身を守るものでもなければ、毒のある昆虫に似せているわけでもありません。私には、アリグモがアリに擬態することで得られるものが何であるのか想像できません。

アリグモの一種の雄



アリのように見せかけるくびれ

アリの腹柄に似た突起



くびれ

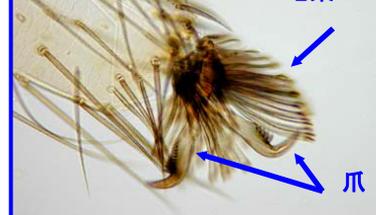
ヘッドライトのような眼



眼

眼

毛束



爪